高崎市文化財調査報告書第 389 集

栄町遺跡 4

-高崎文化芸術センターに伴う発掘調査報告書-

２０１７

高崎市教育委員会

序文

高崎市は、平成21年の市町村合併により人口36万都市となり、平成23年度には中核市となりました。交通結節点という地理環境を活かし、群馬県の中心都市として安定して成長し、平成28年には人口37万人を超えました。

本書は、この新しい顔として期待される高崎文化芸術センター建設に伴い発掘調査した栄町遺跡の発掘調査報告書です。栄町の調査は平成18年から始まり、今回で４次調査となりまが、今回も平安時代の水田跡が確認されました。埋蔵文化財は、郷土の歴史や文化を知る上で欠かせない資料であり、学校教育・郷土学習の場で積極的に活用していきたいと考えています。

発掘調査にあたり、関係諸機関や地元関係者の皆様からのご指導・ご協力をいただきましたことに心より感謝しともに、序といたします。

平成29年３月

高崎市教育委員会

教育長　飯野　眞幸

例言

1　本書は高崎文化芸術センター建設事業に伴い発掘調査を実施した。栄町遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。

2　遺跡名称等　栄町遺跡

3　遺跡の所在地　高崎市栄町９-21・24

4　発掘調査から報告書刊行にいたる業務は、高崎市都市整備部都市集客施設整備室の依頼を受け、高崎市教育委員会が実施した。

5　調査主体者　高崎市教育委員会教育部　文化財保護課　埋蔵文化財担当

6　調査期間と整理期間

発掘期間　平成27年７月３日～平成27年10月30日

整理期間　平成28年４月１日～平成29年３月31日

7　発掘調査体制

高崎市教育委員会事務局

教育長　飯野眞幸

教育部長　上原正男

文化財保護課課長　若狭徹

埋蔵文化財担当係長　角田真也

埋蔵文化財庶務担当　針井修（主査）　金井英一（主査［平成28年度］）加藤志津代（主査）

埋蔵文化財調査担当　黒田晃（主査）　神戸聖語（行政嘱託員［文化財専門］）

整理担当　飯塚光生（行政嘱託員［文化財専門］）

8　本書の編集・執筆は飯塚が行った。

9　委託業務　調査・整理作業で実施した委託業務は下記の通り。

・遺構平面測量・遺構断面測量を（株）測研に委託した。

10　遺構写真の撮影は、黒田・神戸が行った。

11　遺構の断面実測および遺物出土図は、担当者の指示のもと作業員が実施した。

12　調査で得られた各種原図や写真・出土品は高崎市教育委員会が管理し、足門文化財事務所で保管している。

凡例

1　挿図中の方位は、座標北を示す。座標は世界測地系を用いた。

2　遺構名称や番号は、原則発掘調査時に付したものを使用した。

3　遺構略号は、掘立柱建物（SB）・水田（SN）・ピット（SP）等を用いた。

4　遺構図については、挿図中にスケールを添付したが、原則下記の縮尺で掲載した。

遺構平面図・断面図　1/60　溝跡断面図　1/80

遺構全体図　1/400

5　火山噴出物にかかわる表記・略号は下記のとおり。

As-A（浅間A軽石：1783〔天明３〕年）　As-B（浅間B軽石：1108〔嘉承３・天仁元年〕）

目次

序文　例言　凡例　目次

第１章 発掘調査と遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

第１節 発掘調査にいたる経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

第２節 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

第３節 周辺の遺跡と歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

第４節 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４頁

第５節 基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４頁

第６節 遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５頁

第７節 遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５頁

（１）　掘立建物跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５頁

（２）　水田跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６頁

第２章 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11頁

第１節 平安時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11頁

第２節 中世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11頁

第３節 近世・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11頁

第４節 浅間Ｂ軽石下水田跡について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11頁

写真図版・抄録・奥付

挿図目次

第１図　周辺遺跡地図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３頁

第２図　基本層序図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４頁

第３図　調査区位置図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５頁

第４図　１号掘立建物　平面・断面図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・６頁

第５図　水田跡　エレベーション図　１　・・・・・・・・・・・・・・・・・６頁

第６図　調査区　全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７－８頁

第７図　水田跡　畦畔推定図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９-10頁

第８図　水田跡　エレベーション図　２　・・・・・・・・・・・・・・・・11頁

第９図　栄町遺跡Ⅰ、岩押Ⅰ遺跡　浅間Ｂ軽石下畦畔図　・・・・・・・・・12頁

第１章　発掘調査と遺跡の概要

第１節　発掘調査にいたる経緯

高崎市都市整備部都市集客施設整備室（以下「都市集客施設」）では、文化芸術センター建設事業の一環として、平成26年度から平成30年までの５ヵ年で文化芸術センター建設工事を行う計画を立てた。平成27年度は、栄町駐車場解体を計画した。平成27年５月４日、都市集客施設と高崎市教育委員会文化財保護課（以下「文化財保護課」）が埋蔵文化財について協議した結果、平成27年７月１・２日に高崎市教育委員会が試掘確認調査を行った。古代の水田跡等を検出した。都市集客施設が文化財保護法第94条第１項に基づく届け出を行い、高崎市教育委員会では、平成27年７月３日より調査に着手した。調査は排土置場を確保するため調査区を東西２区画に分け、はじめに調査区北側（１区）の調査を行い、１区調査終了後南側（２区）の調査を行った。10月30日に調査を終了した。

第２節　遺跡の立地と環境

高崎市の地形は榛名山南東麓に広がる火山山麓扇状地（相馬が原扇状地）と、それに続く前橋台地となり、烏川から井野川までは井野川低地帯が続いている。前橋台地は約２．１万年前に発生した浅間山起源の前橋泥流層からなり、この上に砂層・泥炭層が堆積し、さらに約１．１万年前の高崎泥流層が堆積し、高崎台地を形成している。

栄町遺跡は旧高崎市域中心部にあり、榛名山麓に源を発する烏川と碓氷川の合流する左岸台地から東に１．７㎞行った場所に立地する。本遺跡は低湿地上にある。

第３節　周辺の遺跡と歴史的環境

縄文時代　縄文時代の遺跡は、城南小学校校庭遺跡（28）、高崎城遺跡Ⅸ（33）、宿大類町村西遺跡（72）、下之城条理遺構遺跡（76）、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡群（87）、などで確認されている。上中居遺跡群（108）から縄文時代前期から後期の集石跡・土坑跡が確認されている。また、下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡群からは、縄文時代中期から後期にかけての住居跡・土坑跡が確認されている。

弥生時代　弥生時代の多くの遺跡は、烏川左岸台地上に立地している。高崎競馬場（７）、高崎競馬場Ⅱ（８）、竜見町遺跡（９）、城南小学校校庭遺跡（28）、高崎城遺跡Ⅲ～Ⅵ（33）、東町Ⅲ遺跡（43）、高関東沖・村前遺跡（50）、高関堰村遺跡（51）、高関村前遺跡（55）、宿大類町村西遺跡（72）、並榎北遺跡（106）が確認されている。高崎競馬場遺跡・Ⅱ、高関東沖・村前遺跡から弥生時代中期の住居が確認され、高崎城Ⅶ、高関堰村遺跡からは環濠が検出されている。また、高崎城Ⅴ・Ⅵからは弥生時代中期～後期の周溝墓跡が確認されている。竜見町遺跡・高崎競馬場遺跡は弥生時代中期後半、竜見町式土器の指標遺跡になっている。

古墳時代　古墳時代の遺跡には双葉町Ⅰ遺跡（23）、新後閑寺廻遺跡（27）、江木諏訪西遺跡（37）、東町Ⅳ遺跡（41）、東町Ⅲ遺跡（43）、高関東沖・村前遺跡（50）、高関村前遺跡（55）、日光町Ⅰ・Ⅱ遺跡（58）、稲荷町Ⅱ遺跡（59）、飯玉Ⅰ（60）、貝沢柳町遺跡（66）、上大類薬師遺跡（67）、宿大類町村西遺跡（72）、下之城条理遺構遺跡（76）、上佐野舟橋Ⅱ（79）、舟橋遺跡（80）、上佐野舟橋Ⅰ遺跡（81）、上佐野舟橋Ⅲ遺跡（82）、上佐野舟橋４遺跡（83）、飯塚大道東遺跡（97）、飯塚新田西Ⅱ遺跡（104）、飯塚新田西・雁田遺跡（105）、並榎北遺跡（106）などがある。双葉町Ⅰ遺跡、高崎城遺跡Ⅴ・Ⅵから古墳時代後期の住居跡を検出している。また、新後閑寺廻遺跡、日光町Ⅰ・Ⅱ遺跡から古墳時代から平安時代にかけての住居跡を確認している。上中居辻薬師Ⅱ遺跡（12）、貝沢柳町遺跡から周溝墓跡を確認している。越後塚古墳（20）、頼政神社古墳（30）、浅間山古墳（31）、五霊神社古墳（63）、聖天山古墳（65）、舟木観音古墳（77）、漆山古墳（85）、上佐野古墳群（86）、浅間山古墳（89）、桜塚古墳（90）、石原稲荷山古墳（92）、三島塚

古墳（93）など烏川などの河川沿いに多くの古墳が築かれた。

奈良・平安時代　奈良・平安時代の集落には新後閑寺廻遺跡(27)、高崎城遺跡Ⅲ～Ⅶ(33)、貝沢柳町遺跡(66)上大類薬師遺跡（67）、天田・川押遺跡（70）上佐野舟橋Ⅰ～Ⅲ・４（79・81～83）などがある。本遺跡地周辺は水田域として利用され、栄町遺跡Ⅰ～Ⅲ・４（１～４）、岩押遺跡Ⅰ・Ⅱ（５・６）、上中居平塚Ⅰ・Ⅱ遺跡（９・10）、上中居辻薬師遺跡（13）、旭町Ⅰ遺跡（34）、東町Ⅰ～Ⅵ遺跡（40～45）、高関塚田遺跡（48）、高関北沖遺跡（49）、高関東沖Ⅱ遺跡（53）、岡久保遺跡（54）、上大類坂サ堰遺跡（57）、日光町Ⅰ・Ⅱ遺跡（58）、上大類北田遺跡（64）、天田・川押遺跡、芝崎遺跡群（73）、下佐野一本木遺跡（88）、昭和町Ⅰ遺跡（96）、飯塚大道東遺跡（97）、飯塚西金井遺跡（98）、東金井Ⅱ遺跡（100）、飯塚十二前遺跡（102）、飯塚大田代遺跡（103）、飯塚新田西Ⅱ遺跡（104）、飯塚新田西・雁田遺跡（105）、並榎北遺跡（106）、飯塚滋音寺遺跡（107）など多くの浅間Ｂ軽石下水田跡を確認している。また、飯塚西金井Ⅱ遺跡（99）、飯塚東金井遺跡（101）からは条里制地割りの一部、大畦畔を確認している。

中世　中世になると中小河川沿いの微高地上に屋敷を築き、水利を管理した。屋敷跡には反町城（15）、和田下之城（22）、新後閑屋敷（26）、岡田屋敷（46）、江木環濠遺跡（47）、高関屋敷（52）、貝沢八幡屋敷（62）、上大類新井屋敷（68）、永井戸屋敷（69）、高井屋敷（74）、高尾屋敷（75）がある。新堀砦（18）は室町期に造られ、高関屋敷、反町城は戦国期に築かれた。和田下之城は永禄11年（1568）和田業繁が正盛のために築城したと伝えられる。

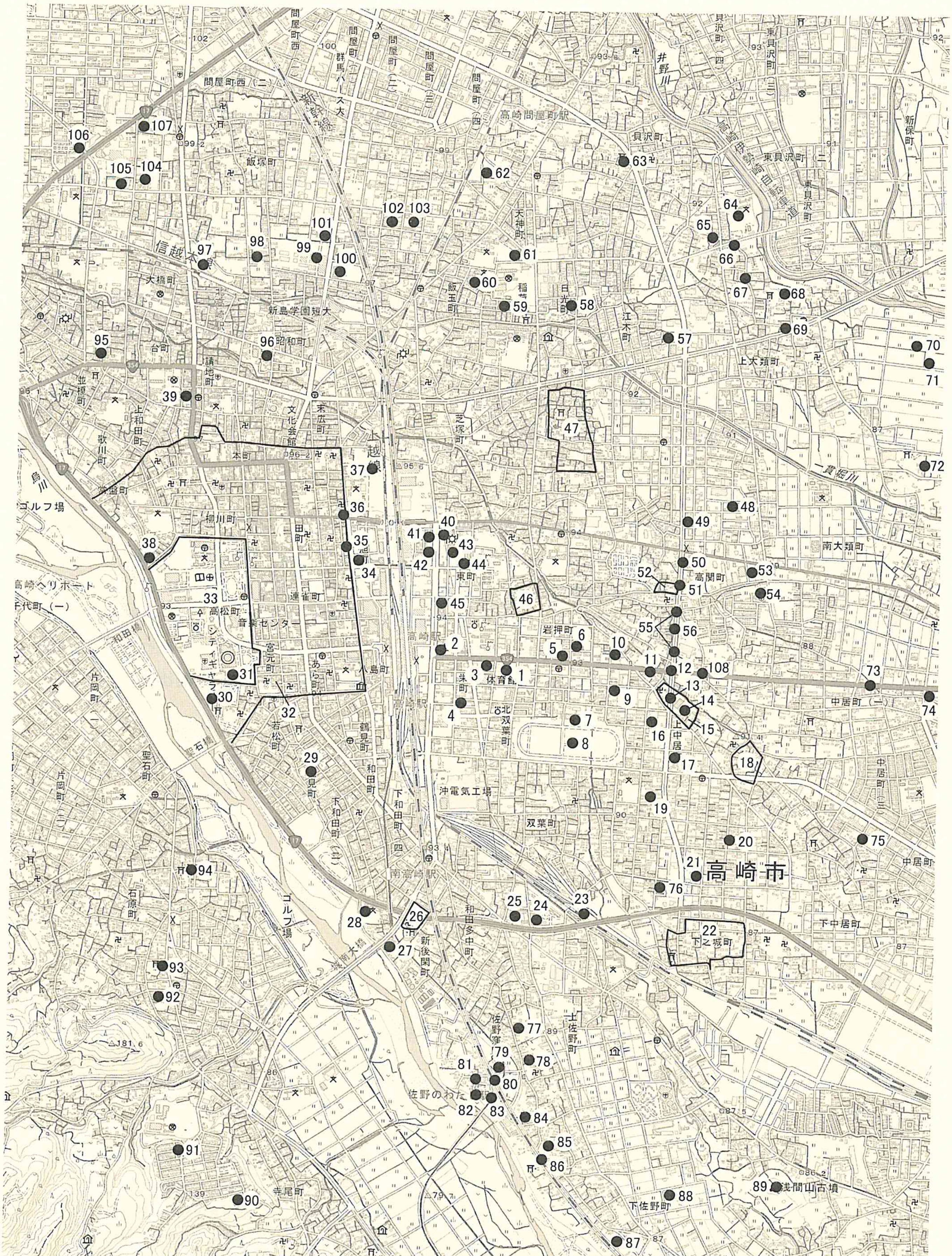
近世　小田原の役（天正18年1590）後、豊臣秀吉の命により、徳川家康家臣の井伊直政は上野国箕輪に12万石で配された。1598年、秀吉の死後、徳川家康の命で箕輪城を和田城跡地〔高崎城遺跡20・22次（33）〕に城を移城し、高崎藩を立藩する。７代藩主、安藤重博が1667（寛文７）年～1692（元禄５）年に大手門・子の門の施工を行い、概ね竣工したといわれる〔高崎城遺跡Ⅰ～23（33）、高崎城遠構（32）〕。

第１表　周辺遺跡一覧表

1	栄町４次	平・中	31	浅間山古墳	古	61	稲荷町Ⅰ	古	91	鶴辺	古
2	栄町Ⅰ	平・近	32	高崎城遠構	近	62	貝沢八幡屋敷	中	92	石原稲荷山古墳	古
3	栄町Ⅱ	平・近	33	高崎城Ⅰ～23	弥～近代	63	五霊神社	古	93	三島塚古墳	古
4	栄町Ⅲ	平・近	34	旭町Ⅰ	奈・平	64	上大類北田	平	94	小祝神社	平
5	岩押Ⅰ	平	35	真町Ⅰ	奈・平・近	65	聖天山古墳	古	95	並榎台原	古
6	岩押Ⅱ	平	36	羅漢町	近	66	貝沢柳町	古・平	96	昭和町Ⅰ	平
7	高崎競馬場	弥	37	江木諏訪西	古・平・近	67	上大類薬師	古・平	97	飯塚大道東	古・平
8	高崎競馬場Ⅱ	弥	38	高松町	平・近	68	上大類新井屋敷	中	98	飯塚西金井	平
9	上中居平塚Ⅰ	平	39	住吉町Ⅰ	平	69	永井戸屋敷	中	99	飯塚西金井Ⅱ	平
10	上中居平塚Ⅱ	平	40	東町Ⅵ	平	70	天田・川押	奈・平	100	東金井Ⅱ	平
11	上中居早道場	中・近	41	東町Ⅳ	弥～近	71	天田遺跡Ⅱ	奈～中	101	飯塚東金井	平
12	上中居辻薬師Ⅱ	古・中	42	東町Ⅴ	平・近・近代	72	宿大類町村西	縄～中	102	飯塚十二前	平
13	上中居辻薬師	平・中	43	東町Ⅲ	弥～平・近	73	芝崎遺跡群	平	103	飯塚大田代	平
14	上中居西屋敷Ⅱ	平・近	44	東町Ⅰ	平・近	74	高井屋敷	中	104	飯塚新田西Ⅱ	古・平
15	反町城	中	45	東町Ⅱ	平	75	高尾屋敷	中	105	飯塚新田西・雁田	古・平
16	上中居西屋敷	平	46	岡田屋敷	中	76	下之城条理遺構	縄・古～中	106	並榎北	弥・古・平
17	上中居西屋敷Ⅲ	平	47	江木環濠遺跡	中	77	舟木観音	古	107	飯塚滋音寺	平
18	新堀砦	中	48	高関塚田	平	78	七鈴鏡 市指定文化財	古	108	上中居遺跡群	縄
19	上中居荒神Ⅰ	平	49	高関北沖	平	79	上佐野舟橋Ⅱ	古・平			
20	越後塚古墳	古	50	高関東沖・村前	弥～奈・中	80	舟橋	古～中			
21	上中居島薬師	平	51	高関堰村	弥・中・近	81	上佐野舟橋Ⅰ	古・平			
22	和田下之城	中世	52	高関屋敷	中	82	上佐野舟橋Ⅲ	古・平			
23	双葉町Ⅰ	古・平・近	53	高関東沖Ⅱ	平	83	上佐野舟橋４	古・奈・平			
24	上佐野通越	平・近	54	岡久保	平	84	常世神社	中			
25	和田多中	平	55	高関村前	弥・古・中	85	漆山古墳	古			
26	新後閑屋敷	中	56	高関村前Ⅱ	平・中	86	上佐野古墳群	古			
27	新後閑寺廻	古・平	57	上大類坂サ堰	平	87	下佐野Ⅰ・Ⅱ遺跡群	縄・古・中・近			
28	城南小学校校庭	縄・弥	58	日光町Ⅰ・Ⅱ	古・平	88	下佐野一本木	平			
29	竜見町	弥	59	稲荷町Ⅱ	古	89	浅間山古墳	古			
30	頼政神社古墳	古	60	飯玉Ⅰ	古・平	90	桜塚古墳	古			

凡例

縄	縄文時代
弥	弥生時代
古	古墳時代
奈	奈良時代
平	平安時代
中	中世
近	近世
近・現	近現代



第１図　周辺遺跡地図

第４節　調査の方法

（１）試掘確認調査　調査前の状況は、平成 27 年の試掘（H26-149）状況で、概ねの遺跡相や密度を想定し調査期間・経費を算出した。また、調査区内に池館堀が存在する事から、事前に西郭堀の範囲を確認するため試掘トレンチを設定し、確認調査を行った。

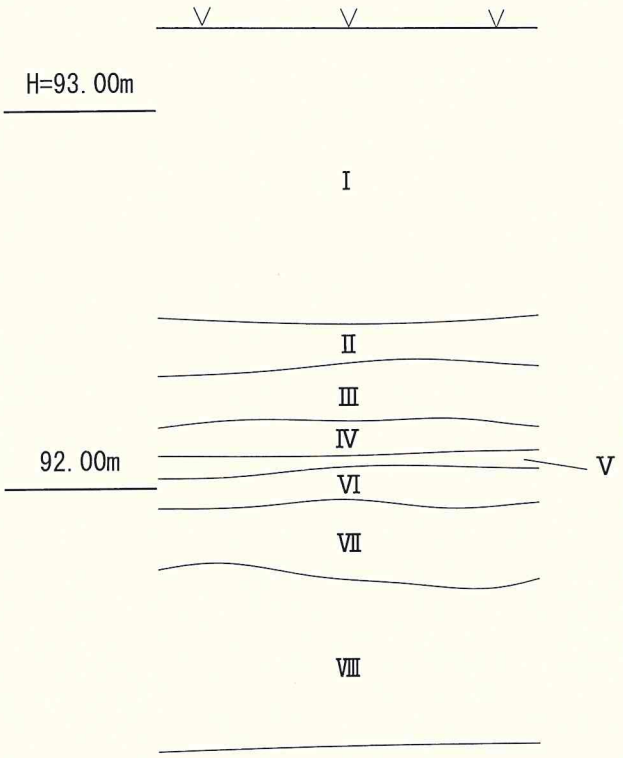
（２）調査区の設定　設計平面図を基に調査担当者が現地で測りだし、調査区を設定した。調査区周りにバリケード・表示等を設置し、安全対策を行った。

（３）調査の方法　発掘調査に伴う排土置き場確保のため調査区を南北２区画にわけ、北側（１区）→南側（2区）の順に調査を行った。表土掘削は重機を使用し、遺構確認面まで表土掘削を行った。その後、人力による遺構確認作業を経て、切り合い関係を確認した上で各遺構の精査を実施した。精査は、地層断面観察・遺物出土状態から完掘まで段階的に各種記録を作成した。写真は、デジタルカメラを使用し調査担当者が撮影を行った。調査終了後は、重機を使用し埋め戻した。

（４）整理作業の方法　平成 27 年度調査終了後、遺構図・エレベーション図は平成 27 年度栄町遺跡平面測量データから平面図・エレベーション図を作成した。

第５節　基本層序

調査区は、立体駐車場として使用されたため、解体時のコンクリート片・アスファルト等を含むⅠ層が約 80cm の厚さで堆積していた。Ⅱ層は約 10 ～ 20cm の厚みで黒褐色土があり、旧水田土壌と考えられる。Ⅲ層は、浅間Ｂ軽石（As-B）を多く含む褐色土層で、Ⅳ層は As-B の一次堆積層。Ⅴ層は黒色土層で As-B 下水田土壌。Ⅵ～Ⅷ層はともに粘性の強いシルト層。表土掘削は、Ⅳ層上面で行った。　火山噴出物である浅間Ａ軽石（As-A）については、Ⅱ層おいて二次堆積が確認できた。浅間Ｂ軽石（As-B）については、調査区全体に５～ 10 cmで一次堆積が確認できた。浅間Ｃ軽石（As-C）の堆積については確認出来なかった。



Ⅰ層	表土	ビル解体時のコンクリート片等を含む。
Ⅱ層	黒褐色土（10YR2/2）	As-A 粒をわずかに含み、堆積密で粘性やや有。旧水田土壌か。
Ⅲ層	褐色土（10YR4/4）	As-B 粒を多く含み、堆積密で粘性有。土中に鉄分を含む。
Ⅳ層	As-B 層	
Ⅴ層	黒色土（10YR2/1）	As-B 下水田土壌。堆積密で粘性やや強い。
Ⅵ層	灰黄褐色シルト（10YR4/2）	堆積密で粘性強い。
Ⅶ層	黒褐色シルト（10YR3/2）	堆積密で粘性強い。
Ⅷ層	褐灰色シルト（10YR5/1）	堆積密で粘性強い。

0　(1:20)　1m

第２図　基本層序図　（Ｓ＝1:20）

第６節　遺跡の概要

今回の発掘調査では、掘立建物跡１件、水田跡が確認された。１号掘立建物跡は中世に該当すると考えられる。水田跡は南北畦畔 10 条、東西畦畔７条を確認した。調査区は水田として耕作され、最近まで市営駐車場として利用されていたため、調査区全体に撹乱が及んでいた。そのため、深度の浅い近世の遺構（災害復旧溝など）は確認できなかった。

（１）旧石器時代

旧石器期の遺構の検出、遺物の出土はなかった。

（２）縄文時代

縄文期の遺構の検出、遺物の出土はなかった。

（３）弥生時代

弥生時代の遺構の検出、遺物の出土はなかった。

（４）古墳時代

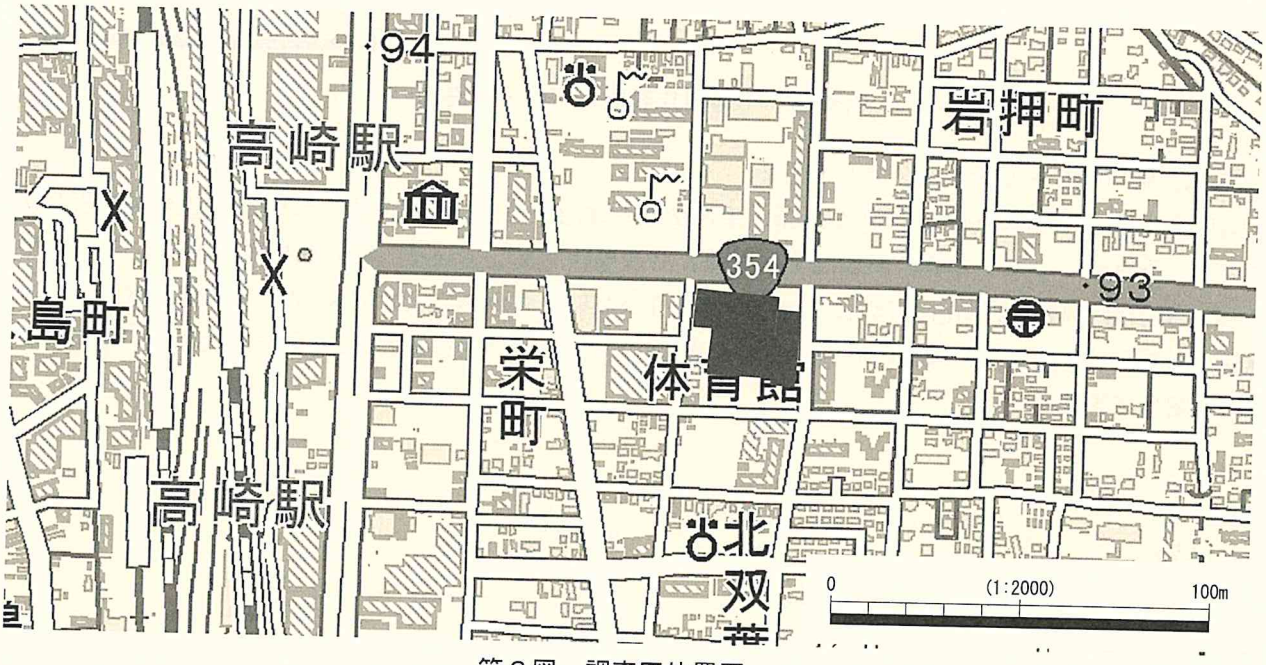
古墳時代の遺構の検出、遺物の出土はなかった。

（５）奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺構は、水田畦畔跡 17 条を検出している。

（６）中・近世

中・近世の遺構は、１号掘立建物跡を確認している。



第３図　調査区位置図

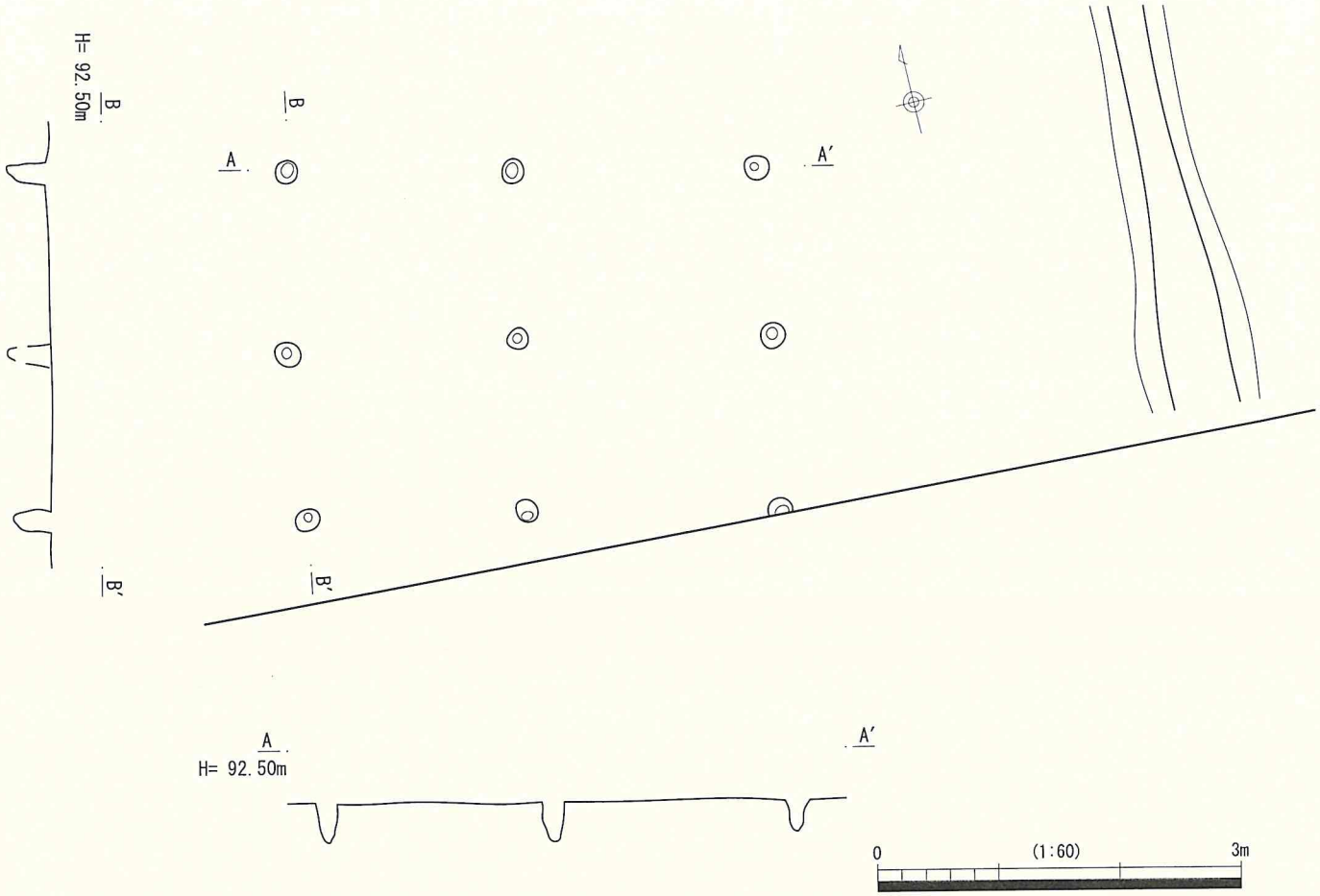
第７節　遺構と遺物

（１）掘立建物跡

掘立建物跡は、調査区南東で１件確認した。

１号掘立柱建物跡　（第４・６図）

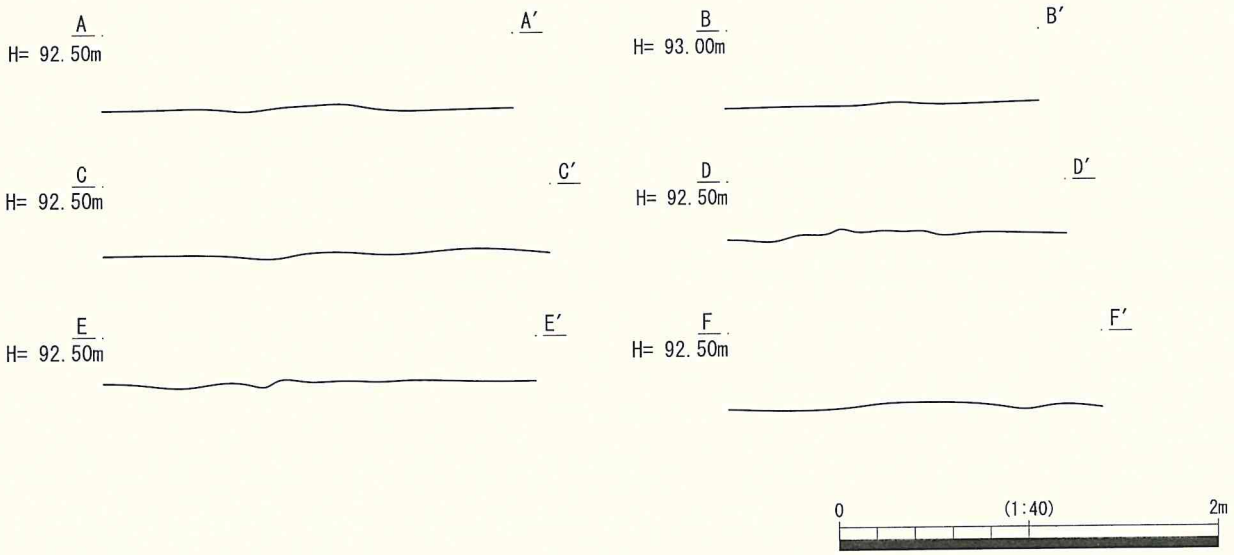
規模　柱の配置は２間×２間で、東西４ｍ、南北３ｍを測る。**方位**　Ｎ－13°－Ｅ　**重複**　なし。**柱穴**径は 30 ～ 42cm、深さありは 27 ～ 34cm あり、柱間隔は東西 1.8 ～ 2.0 ｍ、南北 1.7 ｍ。**出土遺物**　なし。出土遺物がなく遺構堆積土に As-A を含まないことから、時期は中世から近世の間と考えられる。



第４図　１号掘立建物　平面・断面図

（２）水田跡（第５・６・８図、ＰＬ１・２）

栄町遺跡では、As-B 下畦畔を南北 10 条、東西７条を確認することができた。畦畔は概ね東西・南北軸に沿って作られている。畦畔の形状はどれも潰れた台形状を呈している。畦畔の検出状態から、1108 年の As-B 軽石降下時には耕作は行われていない可能性が高いと思われる。直接 As-B 水田に伴う水路などは確認できなかった。また、調査区北側の畦畔は残存状態は悪く、建物基礎などの影響を受けているため畦畔の確認はできなかった。



第５図　水田跡　エレベーション図　１